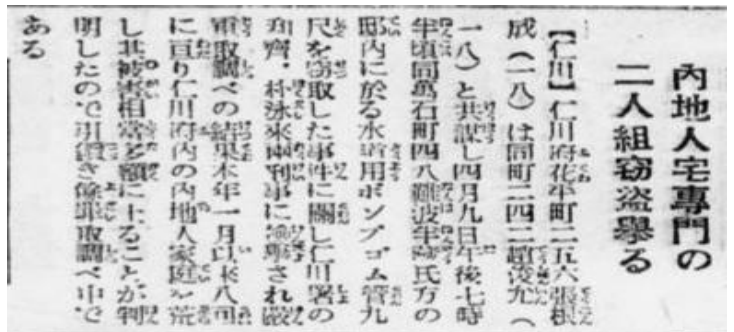


## 偶然見つけた新聞記事と難波さん

仁川のことを調べている時に見つけた古い新聞記事、そこに出ている人に心当たりがあった。記事に出ている難波半蔵さん（以下：半蔵さん）、その住所からわたしが5、6年ほど前から探していた難波さんのお父様だろうと察しがついた。朝鮮新聞昭和12年4月20日の記事、4月9日午後7時半ごろ、半蔵さんの家に泥棒が入り、水道用ポンプゴム9尺（約2.7m）を盗んだというもので、犯人を逮捕したところ余罪が8件も判明したという内容であった。

半蔵さんは記録によると1919（大正8）年に朝鮮総督府の職員となった。勤務している部署の多くが土木課だったことから土木が専門だったのかもしれない。1927（昭和2）年からは江原道の春川、1930～1932年の3年間は不明だが、1933（昭和8）年は全羅南道の木浦で勤務している。仁川には1934（昭和9）年に着任したことがわかった。おそらく、そのころから仁川府万石町48番地に住んでいたのであろう。1940（昭和15）年からは水道課長を務めていた。



上にも書いたが、わたしは5、6年ほど前から難波さん（お名前は伏せています）という方を探していた。その理由は難波さんがわたしの祖父や母が住んでいた仁川府万石町9番地に住んでいたことがわかったからだ。万石町9番地は朝鮮機械製作所の社宅があった場所、ひょっとして難波さんは朝鮮機械製作所に勤務していたのだろうか。難波さんは龍岡小学校から京城にある龍山中学校に進んだ。それ以降のことはわからないが、家の住所が同じなので祖父や母のことを知っているかもしれない。すぐに手紙を書いて出してみたが、宛先不明で戻ってきた。電話も何度かかけたが、留守番電話になり、用件を残したもののかかってくることはなく、のちに難波さんが使っていた電話番号は他の人が使っていることがわかった。その後の調査で難波さんが万石町9番地の前に万石町48番地に住んでいたこと、難波さんには息子さんがいることがわかった。さらに調査を進め、息子さんが卒業した学校がわかり、その学校の同窓会にも問い合わせをしたが、連絡が取れないまま年月が過ぎていった。

2020年5月、ある団体の広報に難波さんの息子さんと同姓同名の方が出ていた。人違いかもしれないが、本人である可能性もあるので問い合わせを試みた。6月に入って電話が鳴った。難波さんの息子さんからだった。うれしさのあまり何からどう話したのか覚えていない。息子さんに

はお父様を探している理由を伝えたが、残念なことにはいぶん前に他界されていた。話が落ち着いてきたころ、気になっていたことをいくつか質問した。まず、朝鮮機械製作所について。これについては聞いたことがないということだった。おそらく朝鮮機械製作所の社宅近くに家があっただけで勤務していたのではない。息子さんによると難波さんは中学校卒業後、お姉様の嫁ぎ先がしている仕事の手伝いに出たようだ。場所は現在の北朝鮮の地域だという。そこにいるときに徴兵されたが、戦場では戦う間もなくシベリア抑留となり、過酷な体験をした。日本には終戦から3年後ぐらいに引揚たとのこと。息子さんは難波さんが仁川時代の集まりに参加したり、仁川を訪問していたことは知っていたが、仁川にいたところの話は尋ねたことはないので、あまり知らないという。それと引揚は仁川からはではなくソ連からだったので、仁川のものは家には残っていないのではという。息子さんからはあまり話が聞けなかったが、難波さんのことが少しわかったこともあり、スッキリした気持ちになった。

今年4月、新聞記事のことで息子さん連絡し、お祖父様のお名前を確認すると、思っていたとおり半蔵さんだった。息子さんは古い新聞にお祖父様の記事が出ていたこと、そしてそれが今の時代に見られることに驚いていた。半蔵さんが朝鮮総督府の職員だったことは聞いていたようで、息子さんはそのことを誇らしげに語った。コロナが落ち着き、他県との行き来ができるようになれば、息子さんに会って、少しでもお話を聞きたいと願っている。